

第三回 上野松颯会定期能楽会 令和八年十月二十四日(土)

仕舞 駒之段 前田飛南子
阿漕 赤井きよ子

伊原 昇 能 上野 雄介
上野 朝義
上野 朝彦

杜若 喜多 雅人

後見 野村 昌司 渡邊 瑞子 上野 雄介
赤松 禎友 赤井きよ子 上野 雄三
前田飛南子 田口 亮二

(休憩 十五分)

寝音曲 狂言 茂山忠三郎 小齊平真路 山口 耕道

仕舞 龍 田キリ 上野 雄三
道明寺 上野 朝義
能 渡邊 瑞子
前田飛南子
赤井きよ子

上野 朝彦 小鍛冶 福王 知登 上野 義雄 中田 弘美
黒頭 佐々木 秀 清水 皓祐 赤井 啓三

後見 野村 昌司 伊原 昇 渡邊 瑞子
上野 雄三 上野 雄介 上野 朝義
田口 亮二 赤松 禎友

附祝言

終演予定十六時過ぎ

『杜若』 旅の僧(ワキ)が三河国・八橋を訪れると、一面に咲く美しい杜若の花に心を奪われる。そこへ里の女(シテ)が現れ、この地は平安時代の歌人・在原業平が都を離れる途中に立ち寄り、有名な和歌を詠んだゆかりの地であることを教える。やがて僧に一夜の宿を貸した女は、業平と二条後の形見の装束を身にまとうと、自分がかの杜若の精であることを明かす。女は、業平が杜若の歌に託した二条后への想いを語ると、その業平こそ女性たちを救いへ導く神仏の化身であったと告げ、伊勢物語の故事を明かしつつ謡い舞う。やがて女は、和歌の功德によって草木の身ながら成仏が叶ったと言

い残し、夜明けとともに消えてゆくのだった。
ねおんぎよく
『寝音曲』 前夜酔い紛れに小唄を唄っていた太郎冠者。それを偶々聞きつけた主人は、自分の前で唄ってみよと命じる。太郎冠者は今後も度々唄わされては迷惑と考え、「酒を呑まねば唄えない」「女の膝枕がないと唄えない」などと次々に条件を付けて・・・。

こかじ くらがしら
『小鍛冶 黒頭』 都一番の名工・三条宗近(ワキ)は、帝の命により名刀を鍛えるよう仰せつかる。しかし、刀鍛冶には息を合わせる相槌が欠かせず、ともに槌を振るうにふさわしい相手が見つからず思い悩む。宗近が稲荷明神に一心に祈ると、童子が現れて古代中国や日本の剣の霊験を語って宗近を励まし、さらに自分が相槌をすることを約束し、剣を打つ準備をして待つように言々と、稲荷山のほうへ消え失せる。(中人) 宗近が自宅に戻り鍛冶の壇を整えて神に祈りを捧げると、稲荷明神(後シテ)が再び現れ、宗近の相槌を務めて剣を打ちあげ、小狐の銘を刻み、道成に剣を捧げる。そして雲に飛び乗り、稲荷山へと帰っていった。小書

「黒頭」では後シテの稲荷明神は黒髪の大鬘を着けた神威あふれる姿で現れ、神秘性と力強さを際立たせる演出となる。

◆「翁」「道成寺」の演目解説講座

定期能をより楽しむために

「道成寺」 10月9日(金)

「翁」 11月27日(金)

昼の部 午後1時～午後2時半
夜の部 午後6時～午後7時半

○料金 2000円

○会場 朝陽会館 大阪市北区天神橋一の一七の八

○お問い合わせ先

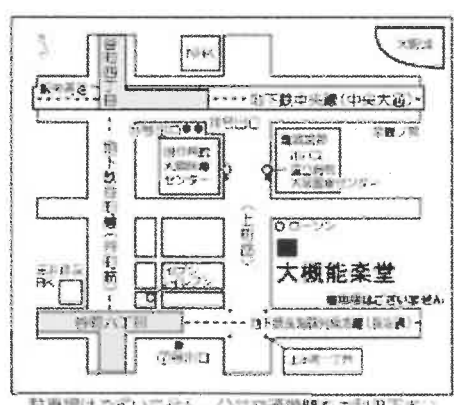
朝陽会館 06(6357)0844

info@choyokaikan.com

【四十回記念 正陽会】会場：大観能楽堂

令和8年12月20日(日) 12時半始

翁 狂言 鴈 礫 上野 雄三
能 道成寺 善竹 忠重 上野 雄介



○大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、
⑩番出口南へ約300mまたは谷町線・鶴見緑地線
「谷町六丁目」下車⑦番出口北に360m
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へす
ぐ ※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行乗車

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します。
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合はご来場をお控えいただきますようお願い致します。